

自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)
／本田 亮

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

授業内容及び方法に関しては、授業回数を重ねて築き上げるものである。したがって、当該年度だけ特別なことを行うことは的外れである。毎年、僅かずつではあるが修正を繰り返してきているので、改めて年間の授業計画を立てる必要性を感じていない。各授業時間後にその授業状況を判断して、次回授業の細かな点を組み立てていくとともに、必要ならば授業中に修正するつもりである。以上、例年どおりのことをするまでである。

2. 点検・評価

授業内容および方法に関しては、授業回数を重ねて築き上げたものである。各授業を例年通りに行うのが前提であるが、修正すべきところはその都度行った。各授業時間後にその授業状況を判断して、次回授業の細かな組み立て直を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

従来どおり、学生からの授業内容の質問に関しては、オフィスアワーを設けずに適宜柔軟に対応する。教員採用試験に関する質問に対しても同様である。

2. 点検・評価

従来からの方法を踏襲し、授業内容に関する質問に適宜対応した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

本学設置の実験装置を利用した物性物理に関する研究のテーマとして、主に電子スピン共鳴の実験を遂行していくとともに、他の実験装置を利用した実験を模索する。また、物理関係の教材開発を、その物理的評価を基にした利用方法の議論を中心に行いたい。

2. 点検・評価

物性物理に関する研究について学会発表と論文発表を共著で行った。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

研究・教育に支障のない限り、割り振られた委員の委員会に出席し、その内容報告を部会議・教育コース会議で行う。

2. 点検・評価

教育部内で担当している学内委員会にはすべてに出席し、部会で委員会審議内容の説明を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

外部から依頼があつて, 協力可能であると判断したときは, 研究, 教育など他の業務に支障のないようにその都度計画を立て協力をを行う。

2. 点検・評価

以下の社会連携を行った。

1. 附属中学校で開催された中学校教育研究会で事前サポートを行うとともに, 当日に助言者として出席した。
2. 大津西小学校でのフレンドシップ活動の支援を行った。
3. 徳島県中学校教育大会理科部会において指導助言をおこなった。
4. JICA国別研修アフガニスタン「教師教育強化プロジェクトフェーズ3」において指導を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

体調不良の教員に代わって, 本年度新たに担当した授業がいくつかあつたが, 支障なく授業を行った。担当する授業時間数は例年よりかなり多いが, 学生の単位所得等の教育支援に滞りがないように配慮した。